

整備のポイント

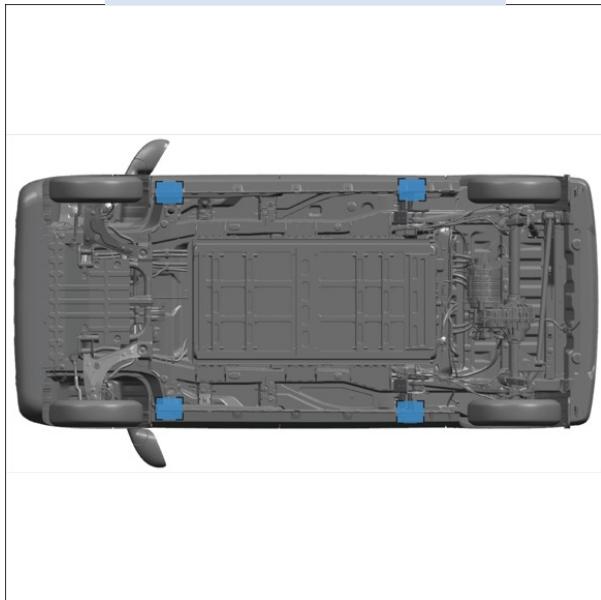
ASF2.0

And Smart Future

ジャッキアップポイント

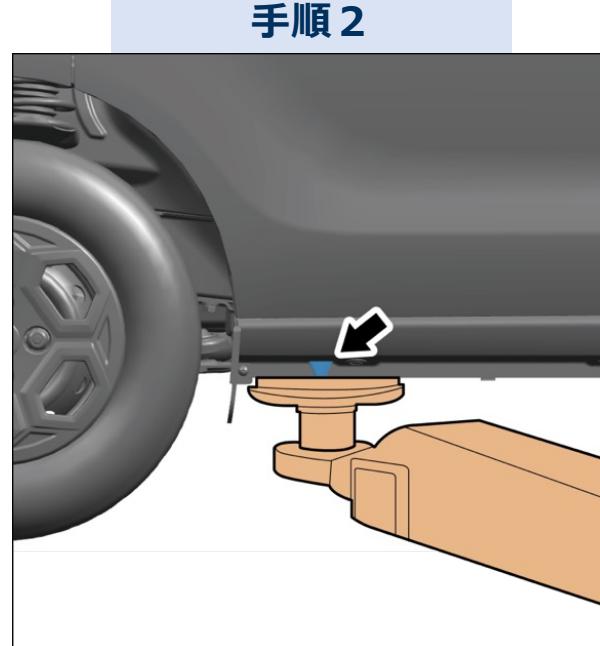
■二柱リフトの場合

手順 1



リフトアップポイントの位置を確認する。

手順 2



フロント側を合わせる。

手順 3



リア側を合わせる。

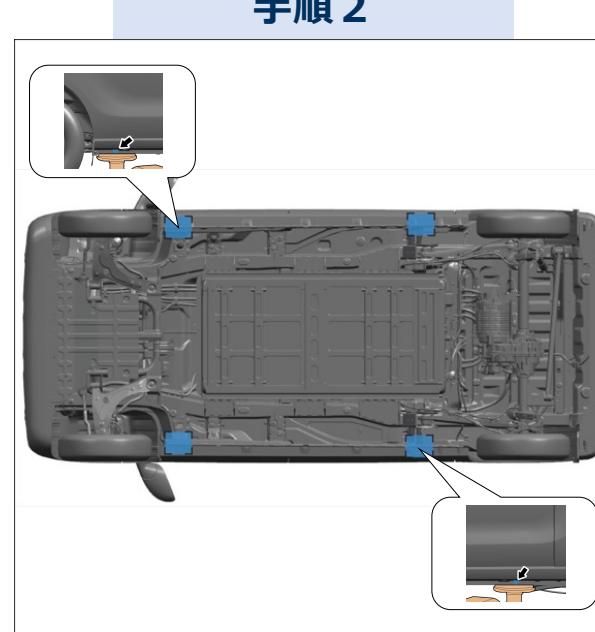
ジャッキアップポイント

■ フロアジャッキの場合（一例紹介）

手順 1



手順 2



手順 3



定期メンテナンス部品

各仕様についてはサービスマニュアル「1章_総説 1.4 車両情報」を参照
 定期交換部品については、電気自動車特有の項目はありません。

部位	項目	仕様	交換タイミング
パワートレイン/シャシー (詳細はサービスマニュアル「3章_パワートレイン」「2章_シャシー」を参照)	デフオイル (リアアクスルギアオイル)	GL-5 75W/90	2年または走行距離40,000km毎に交換
	冷却液	有機酸-40クーラント (ASF純正品を使用のこと)	定期点検時に点検および補充、2年または走行距離40,000km毎に交換
空調 (詳細はサービスマニュアル「4章_空調システム」を参照)	エアコン冷媒	HFO-1234YF	定期点検時に点検または充填
	コンプレッサーパーツオイル	RL68H(P0E68)	定期点検時に点検または補充
	エアコンフィルター	ASF純正品	定期点検時に清掃、汚れが多い場合は交換
エアバッグ (詳細はサービスマニュアル「5章_セーフティシステム エアバッグシステム」を参照)	エアバッグモジュールおよびECU (SDM)	—	10年毎に交換

定期メンテナンス部品

部位	項目	仕様	交換タイミング
ブレーキ <small>(詳細はサービスマニュアル「2章_シャシー 2.6 ブレーキシステム」を参照)</small>	ブレーキフルード	DOT4(ASF純正品を使用のこと)	2年または走行距離40,000km毎に交換
	ブレーキパッド	ASF純正品	定期点検時に点検、摩耗限度に達した場合は交換 【基準(摩耗材+バックプレート厚み)】 標準:15mm 摩耗限度:7.5mm
	ブレーキディスク	ASF純正品	定期点検時に点検、摩耗限度に達した場合は交換 【基準(厚み)】 標準:12mm 摩耗限度:10mm
	ドラムブレーキ	ASF純正品	定期点検時に点検、摩耗限度に達した場合は交換 【基準(ドラム内径)】 標準:220mm 摩耗限度:222mm
	ブレーキシュー	ASF純正品	定期点検時に点検、摩耗限度に達した場合は交換 【基準(摩耗材+バックプレート厚み)】 標準:7mm 摩耗限度:2.5mm
タイヤ <small>(詳細はサービスマニュアル「2章_シャシー 2.5.2 ホイールとタイヤ」を参照)</small>	タイヤ	タイヤサイズ: 145R12LT 8PR ホイールサイズ: 12 × 4.00B	定期点検時に点検および交換

定期点検項目

○：交換、 ▲：点検、調整または清掃、 ●：点検または交換

	点検整備項目	点検整備時期		
		6ヶ月点検	12ヶ月点検	24ヶ月点検
車体	ホイールナットの緩み	▲	▲	▲
	ホイールアライメント	/	▲	▲
	タイヤの摩耗と損傷、回転状態	/	●	●
	ブレーキ配管の状態、フットブレーキ/パーキングブレーキの効き具合、ブレーキシステムの可動部の調整/給脂、ブレーキペダルの遊び	▲	▲	▲
	ブレーキパッド/シュー、ブレーキディスク/ドラムの状態	●	●	●
	接続ボルトの締め付け具合	▲	▲	▲
	前後ダンパーの作動状態	●	●	●
	前後コイルスプリング、スタビライザーバーの状態	●	●	●
	フロントサスペンションストラットのラバーマウントとベアリング	●	●	●
	車体フレームの損傷、溶接部位の状態	▲	▲	▲
	車体可動部の接続ボルトの緩み	▲	▲	▲
	フロントドアストッパーの清掃とグリース塗布	▲	▲	▲

定期点検項目

○：交換、 ▲：点検、調整または清掃、 ●：点検または交換、 ★：電気自動車特有

点検整備項目		点検整備時期		
		6ヶ月点検	12ヶ月点検	24ヶ月点検
駆動と エネルギーシステム	動力バッテリーのシールドカバーの状態★	▲	▲	▲
	動力バッテリーケースと車体を接続するボルトの締め付け具合★	▲	▲	▲
	動力バッテリーの防爆弁の損傷、変形等★	▲	▲	▲
	ブラケット接続ボルトの締め付け具合★	▲	▲	▲
	高電圧ケーブルおよび各高電圧部品の配線接続状態★	▲	▲	▲
	高電圧部品の通信用配線とコネクターの接続状態★	▲	▲	▲
	電気配線とコネクターの接続状態★	▲	▲	▲
	灯火類の作動、ヘッドライト高さ調整機能の作動	▲	▲	▲
エアバッグモジュールおよびECU、センサー		10年毎に交換		
空調および エアコンシステム	冷媒充填	/	▲	▲
	冷却配管と継手	/	▲	▲
エアコンフィルターと オイル	エアコンフィルター	●	●	●
	ブレーキフルード	/	/	○
	デフオイル（リヤアクスルギアオイル）	●	●	○
	冷却液	●	●	○

駆動用バッテリーの紹介

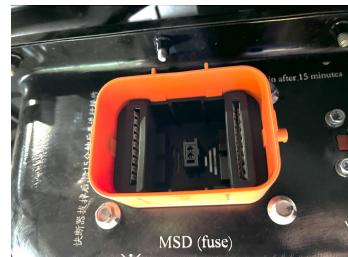
■高電圧遮断プログラム

⚠️ MSDヒューズを含むオレンジのケーブルやコネクター廻りの作業を行うには
電気自動車等の整備の業務に係る特別教育を修了する必要があります。

12Vバッテリーの
マイナス端子を外す



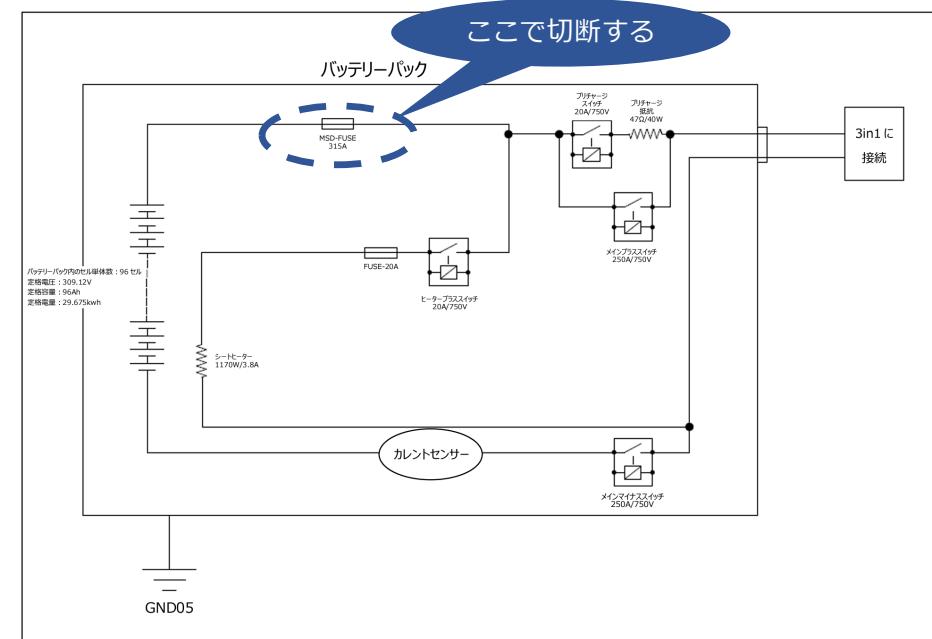
サービスプラグ
(MSD_{*1}ヒューズ) の解除



15分以上待機



*1 : Manual Service Disconnect (整備作業時手動電源遮断) の略



駆動用バッテリーの紹介

■高電圧接続プログラム

⚠️ MSDヒューズを含むオレンジのケーブルやコネクター廻りの作業を行うには
電気自動車等の整備の業務に係る特別教育を修了する必要があります。

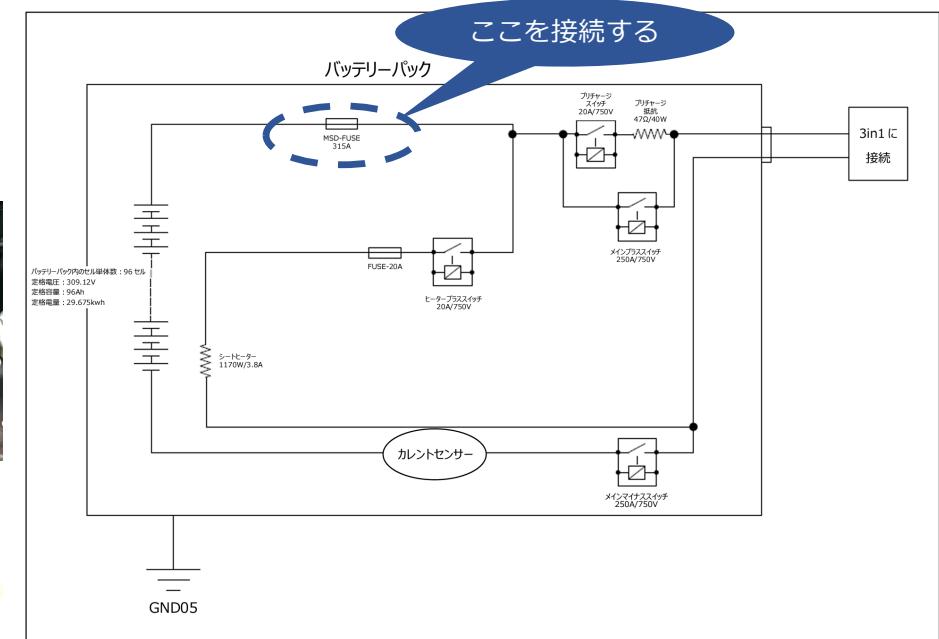
サービスプラグ (MSD_{*1}ヒューズ) の準備



サービスプラグ (MSD_{*1}ヒューズ) の接続



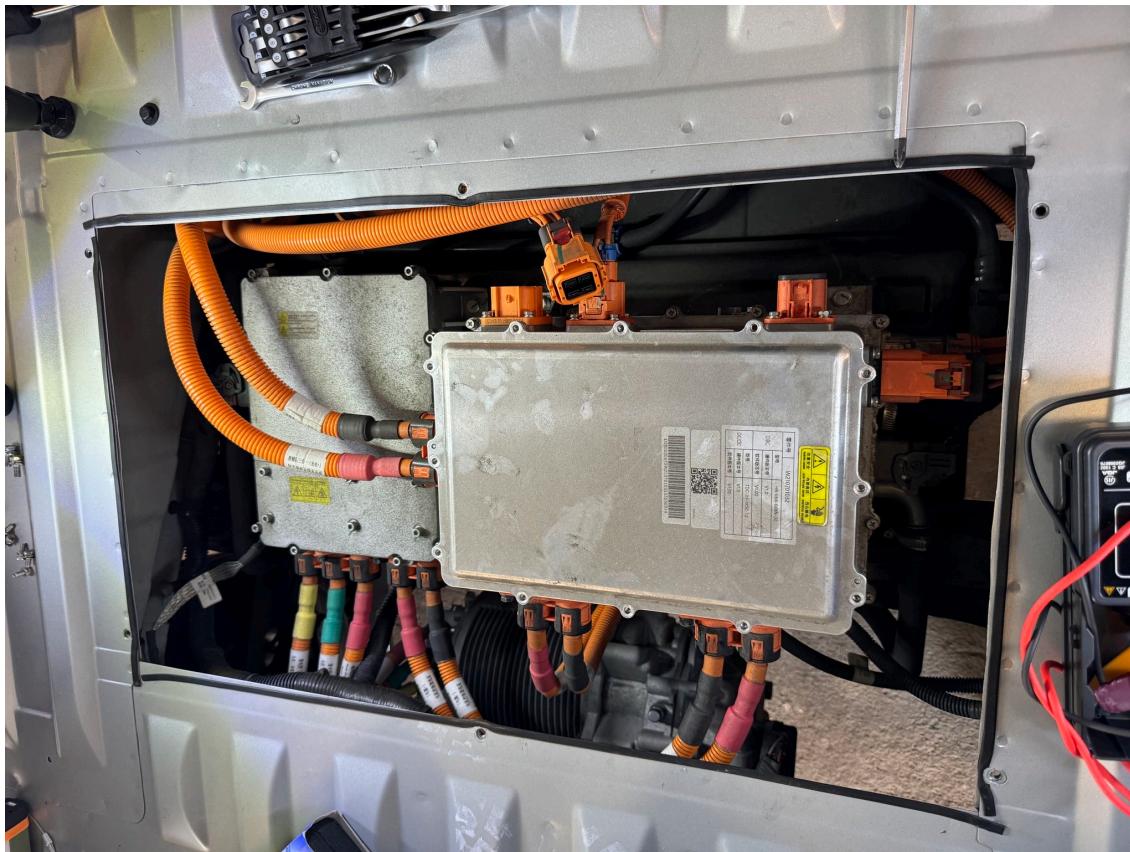
12Vバッテリーの マイナス端子を付ける



*1 : Manual Service Disconnect (整備作業時手動電源遮断) の略

補助駆動システム3in1

荷室下のメンテナンスカバーを取り外すと補助駆動システム3in1とMCU(モーターコントロールユニット)へのアクセスが可能になります。



【確認ポイント】

- ・ハーネスの損傷やコネクターの接続部に異常がないか
- ・冷却液の漏れなどがないか

【注意】

オレンジのハーネス廻り（高電圧配線）の作業を行う前にMSDヒューズの取り外しと放電を行ってください。

故障診断機 詳細は「G050 診断取扱説明書」参照

■ 故障診断を始める前に

1) 準備するもの



故障診断対象車両



ASF2.0専用故障診断機タブレット



VCI※1コネクタ



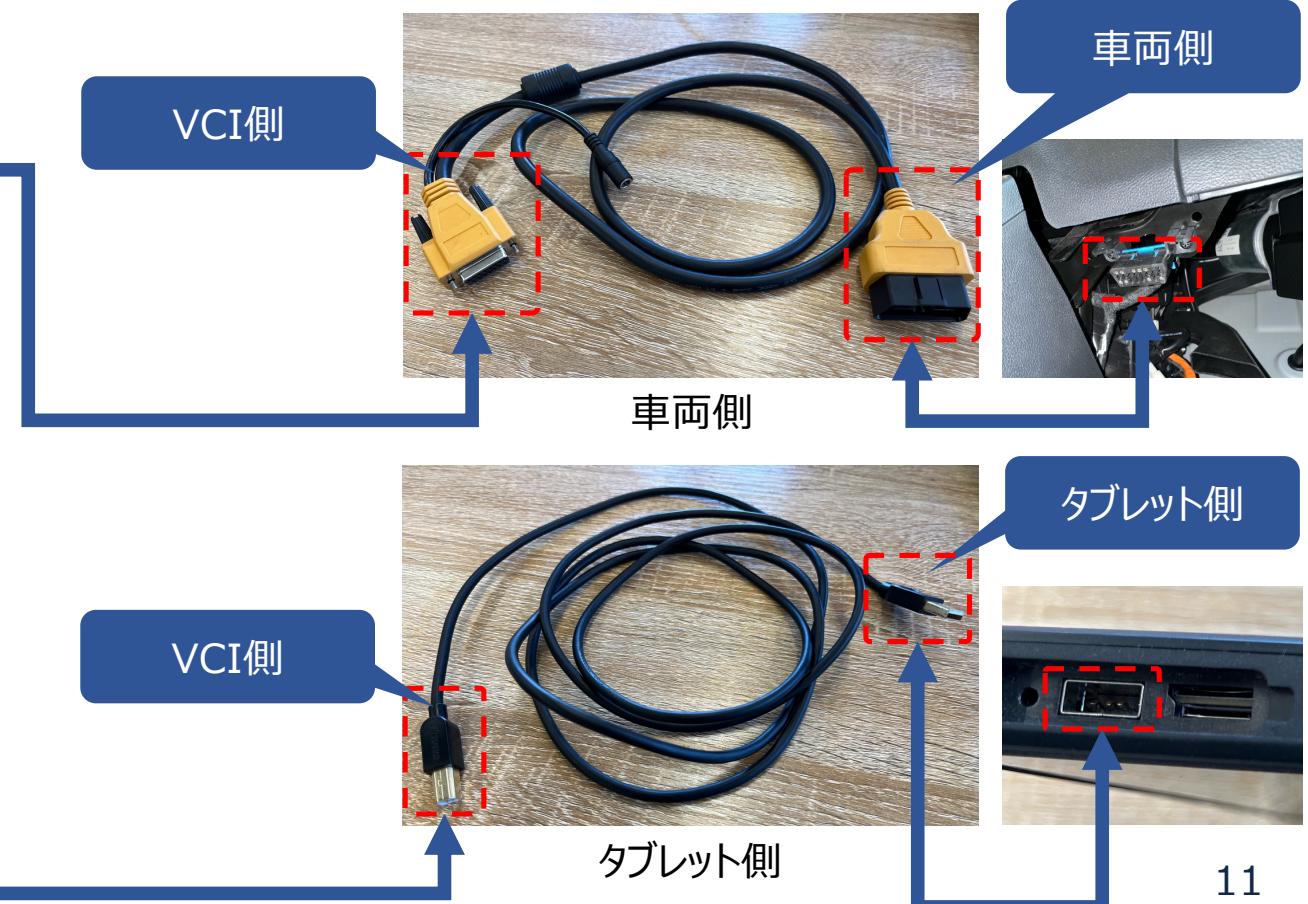
※1 : Vehicle Communication Interface (車両通信機器) の略

故障診断機

詳細は「G050 診断取扱説明書」参照

■ 故障診断を始める前に

3) VCI※1コネクタ



※1 : Vehicle Communication Interface (車両通信機器) の略

ブレーキフルードのエア抜き方法

詳細はサービスマニュアル「2章_シャシー 2.6 ブレーキシステム」参照

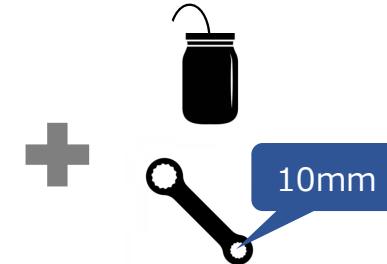
■ エア抜きを始める前に準備するもの



ブレーキフルードエア抜き対象車両



ASF2.0専用故障診断機タブレット



ブレーキフルード (DOT4)

エア抜き使用工具 (キャッチタンク、10mmメガネレンチ)



VCI※1コネクタ

ESC※2バルブの開放に使用

※1 : Vehicle Communication Interface (車両通信機器) の略

※2 : Electronic Stability Control (横滑り防止装置) の略

ブレーキフルードのエア抜き方法 詳細はサービスマニュアル「2章_シャシー 2.6 ブレーキシステム」参照

- ASF2.0におけるエア抜きの流れ

ブレーキフルードの残量確認および補充



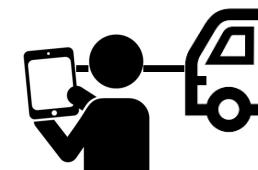
故障診断機の立ち上げと接続



車両情報の入力



ESCバルブの開放



エア抜き（X配管）の実施



ブレーキフルードのエア抜き方法

詳細はサービスマニュアル「2章_シャシー 2.6 ブレーキシステム」参照

■ ESC※1バルブの位置とエア抜き手順 ※①～⑥の順に進める。

②故障診断機の接続と設定
ESCボディコントローラー

<手順>

- 故障診断機を車両に接続し、車両情報を入力する。
- メイン画面から「ESCボディスタビリティコントローラー」を選択する。
- 一覧から「特別な機能」を選択する。
- 画面に従い、以下の数値を入力する。
 - ・真空注入（範囲：2～150）
→45（秒）
 - ・ポンプモーターが作動するまでの時間（範囲：2～150）
→20（秒）
- 「開始する」を選択する。
- 完了メッセージが表示されたら故障診断機を外し、次工程へ移る。

※1 : Electronic Stability Control (横滑り防止装置) の略

